

**歴史に学び  
未来を創る力をはぐくむ  
総合博物館をめざして**

強い存在感を放ちながら、空高くそびえる地上22階の高層タワー。東京都八王子市の多摩丘陵に位置する帝京大学八王子キャンパスに、2015年9月、新校舎棟 SORATIO SQUARE（ソラティオスクエア）が誕生しました。地下1階には2016年6月に迎える帝京大学創立50周年を記念し、これまでの「歴史」と「いま」を詰め込んだ帝京大学総合博物館が開館しました。

「地域に貢献できるものを作りたい」、そんな想いで多くの教職員・学生がかかわり、2010年から企画が動きだした博物館。地元の方も自由に入りできる館内は、50年の歴史をまとめた「帝京大学のあゆみ」エリアから始まります。1931年に創立した帝京商業学校の「実践的教育」という理念を受け継ぎ、1966年に開学した帝京大学。ここでは初めて集められた貴重な写真などで、その歴史を振り返ることができません。企画や運営を務める学芸員の堀越峰之さんは、大学博物館という初めての取り組みに苦心しながらも、膨大な資料の山を丁寧に読み解き、各キャンパスや当時の場所を巡ってアイデアを練り、この展示エリアを完成させました。その奥は、床一面

に八王子キャンパスのある多摩地域の航空写真を配した「多摩の歴史と自然」エリアにつながります。「見慣れた地図もここまで拡大すると、俯瞰視点を体験できます。物事の視点を少し変えれば、今までと違う側面と新しい発見があることを学生にも感じてもらえたら」と堀越さんはねらいを話します。さらに進むと学生が企画に参加した展示の数々が並びます。企画から取材、撮影、デザインまで学生自らが行う八王子キャンパスのフリーペーパー「+T（プラスティー）」編集部と共同で製作した等身大の学生パネルが並びポップなブースや、宇都宮キャンパスの宇宙システム研究会が開発した宇宙軌道への打ち上げにも成功した人工衛星「TeikyoSat-3」の開発の軌跡など、大学の「いま」の象徴が展示されています。今後も各キャンパスの学生との企画展示は継続していくとのこと。

「現役の学生、OB・OG、教員、そして地元の方々。帝京大学にかかわるさまざまな人が世代を超えて集まり、刺激を与え合い、交流し、そして新たな可能性を考える場となっていったほしいです」と堀越さん。今後も定期的に展示内容を変え、また博物館を使った教育プログラムの開発なども学生とともに行っていく予定だそうです。まだまだ始まったばかりの帝京大学総合博物館は、未来を担う学生たちに永く親しまれていくことでしょう。



帝京大学の  
ガイドブック2016を  
お届けします  
「自分流」に学べる  
10学部30学科1短大。  
さあ、興味の扉を開いてみよう！  
請求先 ☎0120-123361（資料請求センター）  
入試情報サイト [www.teikyo-u.ac.jp/applicants/](http://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/)